

開講学科		前橋工科大学 シラバス			
科目名	インテリアデザイン II	標準対象年次	選択/必修		科目コード
		2年次	選択		18104101
担当教員	杉浦 榮	単位数	学期	曜日	時限
		2単位	後期	土曜日	6時限
授業の教育目的・目標	<p>目的：建築環境を合理的に作り出す技術の進展が顕著になるに従い、そこで生活する人への配慮の画一化が進み、生活する側の人間性を考慮する事を省いて、ものとしての環境づくりに多くの努力が集中することとなる。結果としてそこで生活する喜びや、人との対話を通じた環境への愛着が欠けることになり、短い時間で安価に大量に作り出す環境へ社会の興味が偏ることになる。そこでこの授業では、いかにして生活環境を自分の価値感の物差しで考えて、より人間的な環境を創り出すことができるかを、インテリアを通して実際に探すことを試みる。</p> <p>目標：学生自身の環境への興味を引き出し、自分で考えることの大切さを導き出すことこそ環境を大切にし、より長くその環境で生活する意味を見つけ出すことにつながる。</p>				
学科の学習・教育目標との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築計画、建築設計、都市計画などに関する学修を通じて、人にとって快適な建築物と生活空間を設計することのできる技術と能力を養う。 ・ 建築環境工学、建築設備などに関する学修を通じて、人と環境に優しい居住空間を創出することのできる能力を養う。 ・ プロダクトデザイン、工業製品概論、家具デザインなどの学修を通じて、人の住環境を豊かに彩るモノや形、色などについてもの考察することのできる能力を養う。 				
キーワード	室内空間の計画、人間尺度の発見、人にやさしい環境創り、サステナブル建築の意味、人と人の対話の重要性				
授業の概要	<p>インテリアを考えるにあたり、環境を具体的に四つのテーマ空間すなわち、食事を通じて生活する空間、働く環境を考える空間、癒しの空間、休息し眠る空間、についてそれぞれ考える。授業時間の前半はテーマに合う題材のスライドを使い考え方を説明する。次に後半の時間はそれぞれ各自が自分の生活を考えたスケッチをし、自分がこだわる材料をみつけて模型を制作し、全員の前で自分の案のプレゼンテーションを行い講評した後、提出する。テーマによってはゲストスピーカーをお願いすることも考えている。</p>				
授業の計画	<p>第1回：授業のガイダンス及び自分のインテリアへのこだわりを作文し提出する。</p> <p>第2回：食事を通じて生活する空間の説明及びスライド。後半はスケッチ。</p> <p>第3回：上記のテーマでの話し及びスライド、後半はスケッチ及び模型準備。</p> <p>第4回：全員のプレゼンテーションを行いこのテーマでの採点を行う。</p> <p>第5回：働く環境を考える空間の説明及びスライド。後半はスケッチ。</p> <p>第6回：上記のテーマでの話し及びスライド。後半はスケッチ及び模型準備。</p> <p>第7回：全員のプレゼンテーションを行い、このテーマでの採点を行う。</p> <p>第8回：癒しの空間の説明及びスライド。後半はスケッチ。</p> <p>第9回：上記のテーマでの話し及びスライド。後半はスケッチ及び模型準備。</p> <p>第10回：全員のプレゼンテーションを行いこのテーマでの採点を行う。</p> <p>第11回：休息し眠る空間の説明及びスライド。後半はスケッチ。</p> <p>第12回：上記のテーマでの話し及びスライド。後半はスケッチ及び模型準備</p> <p>第13回：全員のプレゼンテーションを行いこのテーマでの採点を行う。</p> <p>第14回：最後に四つのテーマをまとめて、生活環境として自分なりの結論をつくる。</p> <p>第15回：このテーマで全員のプレゼンテーションを行い採点を行う。</p>				
受講条件・関連科目	インテリアデザイン				
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクター、参考資料による講義 ・ 課題演習（スケッチ、スケールモデル、撮影） 				
テキスト・参考書					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験(%) ・ レポート (30%) ・ 小テスト(%) ・ 演習課題 (60%) ・ 受講態度 (10%) 				

